

底びき網漁業における大型クラゲ対策網の試験状況

佐藤 洋（山形県水産試験場）

1. 経緯

近年、本県沿岸海域に大きさのさまざまな大型クラゲが大量来遊し底びき網操業の大きな障害となっているが、その習性や魚介類との大きさの違いを利用してクラゲを網外に排出し魚介類を効率的に漁獲できる漁具を開発するための試験を本県調査船最上丸を用いて平成16年から5年間の計画で行っている。

2. 年次別試験目的

全体計画：仕切網の方法と目合の調整により、分離効率 0.3 以上を達成する

年度	試験の目的
H16 年度	クラゲ排出口の位置と仕切網の基本形状の確認
H17 年度	クラゲ排出口の位置の確認
H18・19 年度	仕切網目合差による分離効率の確認
H20 年度	データ収集と指針策定

3. 試験状況

1) 試験漁具タイプの内容

上短60	: 上抜き、短い仕切り網目合:	60cm
上長60	: 上抜き、長い仕切り網目合:	60cm
下短60	: 下抜き、短い仕切り網目合:	60cm
下長60	: 下抜き、長い仕切り網目合:	60cm
上短40	: 上抜き、短い仕切り網目合:	40.5cm

2) 年度別試験結果

年度/試験漁具タイプ	上短60	上長60	下短60	下長60	上短40
平成16年度	保持率	0.94	0.92	0.95	0.95
	排出率	-	-	-	-
	分離効率	-	-	-	-
平成17年度	保持率		0.93		0.90
	排出率		0.51		0.56
	分離効率		0.45		0.46
平成18年度	保持率	0.83			0.64
	排出率	0.84			0.28
	分離効率	0.67			-0.08
平成19年度	保持率	0.93			0.75
	排出率	0.23			0.51
	分離効率	0.15			0.26